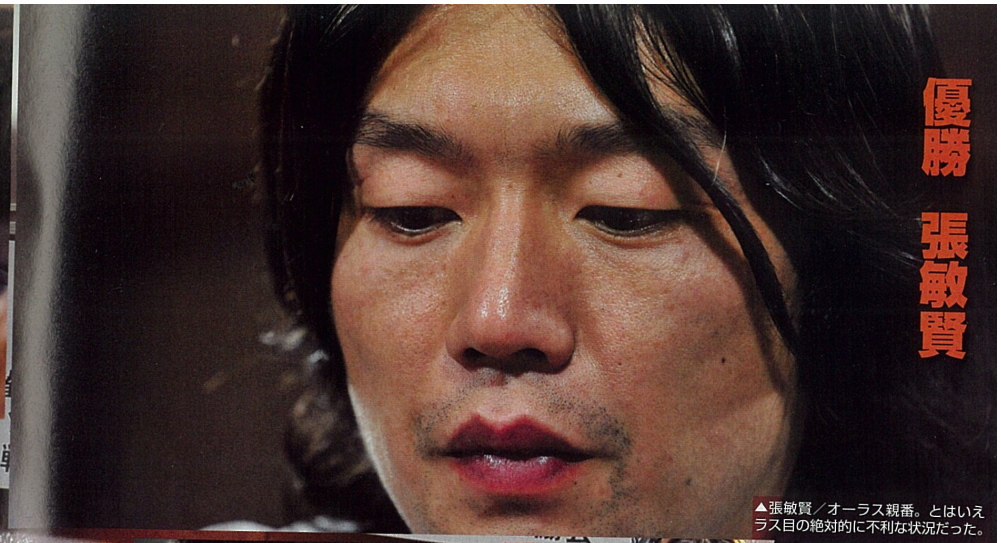
優勝 張敏賢



▲張敏賢／オーラス親番。とはいえラス目の絶対的に不利な状況だった。

準優勝 段谷昭夫

▲段谷昭夫／オーラスまで鈴木優と同点トップ。栄光は目の前!!

3位 鈴木郁孝

◀鈴木郁孝／読者予選から勝ち上がってきたプロ連盟所属の選手である。

南2局は南家**鈴木（優）**と西家**張**が仕掛けて共に聴牌、流局。

南3局。親の落ちた**鈴木（郁）**だが、丁寧に手をまとめてリーチ。

ドラ

これを混一で聴牌していた東家の**鈴木（優）**から出和了りするも、裏ドラ乗らずの2000。

段谷と**鈴木（優）**が若干抜けたまま、運命のオーラスを迎える。

南4局――。ここまで点棒は、**段谷**30500、**鈴木（郁）**21800、**鈴木（優）**30500、**張**17200である。

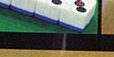
段谷と**鈴木（優）**は和了り競争、**鈴木（郁）**はその二人と8700点差を詰めなければならない。一方の**張**は、13300点差。満貫ツモ1回で届くとは言え、厳しい状況であることは誰の目にも明らかだった。

東家、**張**の配牌は、

ドラ

対して、北家**鈴木（優）**は

と、四者の中で最もまとまっている。第1ツモ で、いきなりの



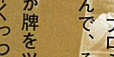
イーシャンテン。

段谷の配牌は悪く、和了りがあるとすればやはり**鈴木（優）**であろうと思われた。

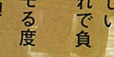
2年連続で激戦の読者予選を勝ち抜くという偉業を成し遂げた**鈴木（優）**。彼は過去、最高位戦に所属していた麻雀プロであった。地元に帰って雀荘を開くという夢があり、そのために競技選手は引退したのである。

それでも彼は打ち手としての情熱を忘れられず、昨年・今年と最強戦に出場して、見事この大舞台に駒を進めた。もう少し、もう少しで最強位に手が届く――。

3巡目に**張**はペン を引き入れ、戦える形を得る。



そして6巡目、ツモ 。



この苦しい点棒状況。ラス目の親で、待望の先制聴牌である。ノミ手ではあるが、 を切ってリーチするのが自然ではないだろうか。

張は落ち着いて場を見渡し――、ゆっくりと打 として聴牌を崩した。

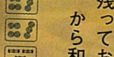
次巡 を引いて、打 。

選んだのは、最後までプロらしい過程を重んじた**張**だった。

ロン ドラ 裏

鈴木（優）は親満の放銃で脱落。オーラス1本場、**張**はトップの**段谷**まであと300点。

それぞれ返す刀は残っておらず、やはり**張**が**鈴木（優）**から和了って激戦を制す。



ポン ロン ドラ

麻雀は、結果を残すのが、非常に困難なゲームである。その勝負の性質から、「今日絶対に勝つ」といった意気込みや気合いが全く意味を成さないことを、私たちは痛感している。だからこそ、プロとして内容のある麻雀を打ち続けること、結果論よりそこに至る過程を疎かにしない姿勢を、張は何よりも大切にしていた。

あの開局時、無謀な国士が成就するより、よっぽど価値のある勝利であったように思う。

第19期最強位は、**張敏賢**。まさに最高で、最強のプロである。

4位 鈴木優

▶鈴木優／2年連続で読者予選から本大会へ勝ち登ってきた。それだけでも尋常ではない雀力と執念。しかも今年は決勝卓へ。オーラス段谷と同点トップ。点数は問わない。アガりさえすればよい。最強位の栄冠はすぐそこ。あと一息。成就するか!?

▲トップが決定した瞬間の張。万感の思いが交錯したことだろう。

◀ を引いたときにギャラリーは目を見はった。そして でアガったときには目を剥いた。次にマナーを逸した小さなどよめきが起きた。対局中にギャラリーが声を出すのはいけないに決まっている。そんなことを知らぬ者はここにはいない。にも拘らず押し殺した歓声が漏れ出してしまった。

第19回麻雀最強戦本大会最終順位

優勝	張敏賢	最高位戦
準優勝	段谷昭夫	さん京都店
3位	鈴木郁孝	lookup
4位	鈴木優	ウィング
5位	風間杜夫	俳優
6位	成瀬朱美	プロ協会
7位	尾崎公太	最高位戦
8位	片山まさゆき	漫画家
9位	前原雄大	プロ連盟
10位	早川裕次郎	ハートランド札幌ミニ
11位	元島明子	大成クラブ
12位	芝美穂子	All in
13位	福井守	All in
14位	横井玲巳	スライム
15位	荒正義	プロ連盟
16位	吉田基成	プロ協会
17位	福本伸行	漫画家
18位	横井秀明	G-1 渋谷店
19位	沼田敦	はこバラ仙台店
20位	浜谷好幸	ラッキーバード
21位	中村光浩	ブルードラゴン福岡天神店
22位	和田聡子	最高位戦
23位	先崎学	プロ棋士
24位	二階堂亜樹	プロ連盟

役無しのシャンポンだが、 は2枚残っている。無論**鈴木（優）**は、和了ればトップ。しかし――。

昨年も今年も、素晴らしい戦いぶりを見せてくれた彼を、個人的には強く讃えたい。しかし牌山の巡りが

熟慮無く、場に高い筒子のカンチャンで安易に曲げること、それを良しとしなかった。この牌姿なら、一通や、三色を追える。プロらしい、自分らしい過程を踏んで、それで負けたなら仕方ない。

見る者全てが、**張**が牌をツモる度に息を呑んだ。（――くっつけ！）

――くっつけ！

それは**張**を応援するというより、**張**のプロたる意志と矜持に、皆が共振している心の声だった。

12巡目、ツモ 。

「リーチ！」

満を持しての、**張**の声。

は、山に1枚。次巡、**鈴木（優）**が追いついてリーチ。

三色の、イーシャンテン。

「プロとして、自分の意志を貫きたいんです――」

後に**張**はそう語った。

三色のプロたる意志と矜持に、皆が共振している心の声だった。

12巡目、ツモ 。

「リーチ！」

満を持しての、**張**の声。

は、山に1枚。次巡、**鈴木（優）**が追いついてリーチ。

協力▶使用卓／マツオカメカトロニクス　椅子／麻雀エース（新宿 03-3348-3639）